



ユーザの削除

Cisco Unified Communications Manager ディレクトリのユーザ グループは削除できます。既存のユーザ レコードは、次の2つの方法のいずれかによって検索できます。

- [クエリーを使用したユーザの削除 \(P.19-2\)](#)
- [カスタム ファイルを使用したユーザの削除 \(P.19-4\)](#)

クエリーを使用したユーザの削除

クエリー フィルタを作成してユーザ レコードを検索し、ユーザを削除する手順は、次のとおりです。

手順

ユーザ レコードを検索するためのクエリーを作成してユーザを削除する手順は、次のとおりです。

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの削除 (Delete Users)] > [クエリー (Query)] の順に選択します。

[ユーザの削除 (Delete Users Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [検索対象: ユーザ、検索条件 (Find User where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [ユーザ ID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [マネージャ (Manager)]
- [部署名 (Department Name)]

2 番目の [検索対象: ユーザ、検索条件 (Find User where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [が次の文字列で始まる (begins with)]
- [が次の文字列を含む (contains)]
- [が次の文字列と等しい (is exactly)]
- [が次の文字列で終わる (ends with)]
- [が空である (is empty)]
- [が空ではない (is not empty)]

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



ヒント データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 4 クエリーをさらに定義する場合や、複数のフィルタを追加する場合は、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにし、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択して、ステップ 2 ~ 3 を繰り返します。

ステップ 5 [検索 (Find)] をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが、次の項目別に表示されます。

- [ユーザ ID (User ID)]
- [名 (First Name)]

- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [マネージャ (Manager)]
- [部署名 (Department Name)]
- [LDAP 同期状態 (LDAP Sync Status)]

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 ユーザ レコードを即座に削除するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。ユーザ レコードを後で削除するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 8 ユーザ レコードを削除するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 9 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

ジョブの詳細については、[第 66 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。

ログ ファイルの詳細については、[P.67-4 の「BAT ログ ファイル」](#) を参照してください。

その他の項目

詳細については、[P.19-5 の「関連項目」](#) を参照してください。

カスタム ファイルを使用したユーザの削除

テキスト エディタを使用してユーザ ID のカスタム ファイルを作成し、ユーザを検索して削除できます。

始める前に

1. テキスト ファイルを作成し、削除するユーザ ID を 1 行に 1 つずつ指定します。
2. カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。詳細については、第 2 章「ファイルのアップロードとダウンロード」を参照してください。

カスタム ファイルを使用してユーザを削除する手順は、次のとおりです。



(注) 削除トランザクション用に bat.xlt として作成したトランザクション ファイルを挿入またはエクスポートしないでください。代わりに、削除が必要なユーザ レコードの詳細情報が設定されたカスタム ファイルを作成する必要があります。削除トランザクションには、このファイルしか使用しないでください。このカスタム 削除ファイルには、ヘッダーを指定する必要がありません。ユーザ ID の値を入力します。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの削除 (Delete Users)] > [カスタムファイル (Custom File)] の順に選択します。

[ユーザの削除 (カスタム) (Delete Users Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [検索対象: ユーザ、検索条件 (Delete Users where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索条件を選択します。

- [ユーザ ID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [部署名 (Department)]

ステップ 3 [カスタムファイル (Custom file)] ドロップダウン リスト ボックスで、カスタム ファイルのファイル名を選択します。

ステップ 4 クエリーに必要な情報が含まれていることを確認し、[検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 ユーザ レコードを即座に削除するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] オプション ボタンをクリックします。ユーザ レコードを後で削除するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 7 ユーザ レコードを削除するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 8 このジョブのスケジュールやアクティブ化を行うには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

ジョブの詳細については、第 66 章「ジョブのスケジュール」を参照してください。

ログファイルの詳細については、P.67-4 の「BAT ログ ファイル」を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.19-5 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- クエリーを使用したユーザの削除 (P.19-2)
- カスタム ファイルを使用したユーザの削除 (P.19-4)

